

MOTコレクション

特集展示 | 福島秀子

クロニクル 1964- OFF MUSEUM

会期：2012年2月4日(土)～5月6日(日)

東京都現代美術館では、約4,000点のコレクションを核として、会期ごとにテーマを設定し、戦後・現代美術の魅力を多角的に紹介しています。今期は、1940年代末より絵画を中心に制作し続けた作家、福島秀子(1927-1997)の特集展示と、戦後日本美術を見直す「クロニクル」シリーズの3回目として、1964年以降の美術動向に焦点をあてた「1964- OFF MUSEUM」により構成します。

同時開催の企画展「田中敦子ーアート・オブ・コネクティング」展、「嚶嘯 ふたたび虹のかなたに」展と連動し、戦後の日本美術を知るうえで、欠くことのできない作家・作品、美術動向をご紹介します。

1F 「特集展示 | 福島秀子」

福島秀子は、1940年代末より80年代末まで、絵画を中心に発表し続けた作家です。福島作品では、スタンプが重要な要素となっています。様々なものを素材にして紙やキャンバスに押されたスタンプは、運動感に満ちた筆触や、陰影に富んだ色彩とともに幾層にも重ねられることで、絵画空間に独特の響きをもたらしています。その絵画世界は、1957年に来日し、「アンフォルメル(未定形)」という美術運動を主唱したフランスの美術評論家ミッシェル・タピエに激賞され、ヨーロッパで開催された展覧会に出品を重ねました。「アンフォルメル」とは、未だこの世界のどこにもないものを行為とマチエールによって創ろうとするものですが、タピエは福島作品のなかに、未知のものに向かって生成されるイメージの力を見出したのでしょう。そうした画家としての活動の一方、彼女は、当時の前衛的なグループにも積極的に関わりました。1951年、創立メンバーとして加わった「実験工房」は、美術と音楽を中心として、ジャンルを横断した総合的な空間(環境)の創造を目指すものでした。福島はこのグループの発表会で、新しいメディアを使った映像作品や舞台衣装、装置等を手掛けています。こうした福島独自の営みを回顧する試みは、これまでそう多くはありませんでした。このたびの展示では、多数の未発表作品を含む新収蔵作品を中心に、最初期から晩年に至るまで、福島の追い求めた表現の世界を探ります。



北代省三《福島秀子》1956年
ゼラチン・シルバー・プリント
川崎市岡本太郎美術館蔵

なお、「特集展示 | 福島秀子」では以下の展示も併せて行います。

(1) 実験工房

福島秀子の参加した「実験工房」は、1951年に結成されたグループです。グループの活動の一端を、作品・映像・資料により紹介します。

出品予定作家: 大辻清司、北代省三、駒井哲郎、山口勝弘ほか

(2) 同時代作家たち

福島秀子とほぼ同世代で、50年代以降その独特な才能が注目された女性作家たちに焦点をあてます。

出品予定作家: 漆原英子、榎本和子、草間彌生、間所紗織、宮脇愛子

(3) アンフォルメルと具体

「具体美術協会」(略称: 具体)は、リーダーの吉原治良のもと、阪神在住の若手作家により、1954年に芦屋で結成されたグループです。タピエは彼らの作品にも高い関心を寄せました。

出品予定作家: 金山明、白髪一雄、村上三郎、吉原治良、吉原道雄ほか

3F 「クロニクル 1964- OFF MUSEUM」

今期の「クロニクル」は、「OFF MUSEUM」をキーワードに、1964年以降の美術動向に着目します。東京都美術館で開催されていた「読売アンデパンダン」展は、誰もが出品できる無鑑査・自由出品制をとっていました。また主催者である読売新聞社が、紙面を用いた新人発掘キャンペーンを行ったことから、前衛的な新人作家が集う実験場と化していました。しかし彼らの破壊的ともいえる行為や作品がもとで、同展は1964年に中止が通告されます。このアンデパンダン展の中止は、美術館の外に発表の場を求め、表現方法を拡張することを加速化させました。1964年に篠原有司男や小島信明、ハイレッド・センターら、アンデパンダン展の先鋭的な若手作家たちが大同団結して、新宿の画廊で「OFF MUSEUM」展を開催します。彼らのように美術館の外で展開された様々な活動は、美術館と美術についての根底的な再検討を迫るものとなりました。「OFF MUSEUM」とは文字通り「美術館の外」という意味ですが、このことを美術館から逸脱し、既存の枠組みへの問題提起を含む、この時代を象徴する概念にとらえ、改めて美術館と作品との関係について考える契機とします。

出品予定作家:

小島信明、篠原有司男、ハイレッド・センター(高松次郎、赤瀬川原平、中西夏之)、平田実、観光芸術研究所(中村宏、立石紘一)、山口勝弘、多田美波、福岡道雄、塩見允枝子、神田昭夫、秋山祐徳太子ほか

展示構成案

(1) 美術館から離れて

1964年に新宿の画廊で「OFF MUSEUM」展を企画した篠原有司男や小島信明の作品、60年代から70年代にかけて美術館の外で前衛美術家たちを記録し続けた平田実の写真を展示します。

(2) 観ることを問う

1964年に結成された観光芸術研究所(中村宏、立石紘一)は、東京駅や多摩川を舞台に作品を発表しました。その活動とともに、現在に至るまで常に絵画とそれを観ることの関係に制作の主軸を置く中村宏の作品を紹介します。

(3) 「彫刻」に挑む

1963年に共に展覧会を行った山口勝弘、多田美波、福岡道雄の作品は、従来の彫刻に対する考え方や表現方法を外れ、新しい彫刻の在り方を提示するものでした。

(4) インターメディア/トランスメディア

1964年に渡米し、フルクサスのメンバーとして活動を行った塩見允枝子は、コミュニケーションを媒介としながら、軽やかにメディアを横断していきます。塩見の参加した「グループ音楽」をはじめ、60年代の草月会館を舞台とした音楽やパフォーマンスについても併せて紹介します。

(5) 再び、美術館へ

秋山祐徳太子は、60年代にグリコのパッケージの男性キャラクターや二宮金次郎などに扮して公衆の面前に突如現れる「ポップ・ハプニング」を展開します。さらに、政治のポップ・アート化を目指して、選挙活動を自らの作品となすべく、1975年と1979年に東京都知事選に立候補しました。美術館から外れた場で展開された活動を、美術館のなかで再検証します。

今期MOTコレクションのみどころ

■これまであまり紹介されることのなかった福島秀子の作品世界に迫る。

福島秀子は、田中敦子と同時代に前衛的な活動を繰り広げた女性作家ですが、その作品がまとまって美術館で紹介される機会はほとんどありませんでした。このたびは、新規に収蔵した未発表の水彩作品のほか、油彩や映像作品、多数の資料により、作家の世界にふれる貴重な機会となります。

■近年注目の高まる「実験工房」の活動をお伝えします。

1951年に結成された「実験工房」は、結成60周年を迎えましたが、そのインターメディア的活動の先駆性から近年とみに注目が集まっています。メンバー同士切磋琢磨することで育まれた実験精神に富んだ活動を、造形作品と資料によりご紹介します。

■「田中敦子」展に関連し、「具体」の絵画作品を展示。

「具体」メンバーであった田中敦子の個展に併せて、リーダーの吉原治良による「これまでにないものをつくれ」というモットーから制作された絵画作品を展示します。

■1960年代から70年代にかけて日本の前衛美術家たちを捉えた平田実の写真を多数展示。

戦後の日本の前衛美術家たちの活動について、このところ国内外から関心が寄せられています。当時の活動を鮮烈に捉えた平田実の写真を多数展示します。

■「鬚嘔」展に関連し、塩見允枝子の活動を新収蔵作品により紹介。

フルクサスのメンバーとして鬚嘔と交友のあった、塩見允枝子の作品の数々を映像を交えて展示します。

■秋山祐徳太子のハプニングやパフォーマンスをご紹介します。

秋山祐徳太子の活動は、当館でこれまでほとんど紹介されることがありませんでした。新規に作品を収蔵したことを契機として、「もの」としての作品を越えた広がりをもつ、秋山祐徳太子の活動をお伝えします。

展覧会情報

会 期	2012年2月4日(土)－5月6日(日)	
開館時間	10:00-18:00(入場は17:30まで)	
休館日	月曜日 *ただし4月30日は開館、5月1日は休館	
会場	東京都現代美術館 常設展示室 1F, 3F	
観覧料	一般500円、大学生400円、高校生・65歳以上250円、中学生以下無料 ただし企画展のチケットでもご覧いただけます。	
お問合せ	03-5245-4111(代表)/03-5777-8600(ハローダイヤル) http://www.mot-art-museum.jp	
交通案内	東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2出口より徒歩9分 都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3出口より徒歩13分	
主催 担当学芸員	東京都、東京都現代美術館 藤井亜紀(事業企画課 事業係)	
関連イベント	出品作家の講演会などを予定しております。詳細が決まり次第HP等でご案内いたします。	
同時開催	「鬚嘔 ふたたび虹のかなたに」	2012年2月4日-5月6日/企画展示室1F+B2F
	「田中敦子ーアート・オブ・コネクティング」	2012年2月4日-5月6日/企画展示室3F

広報お問い合わせ

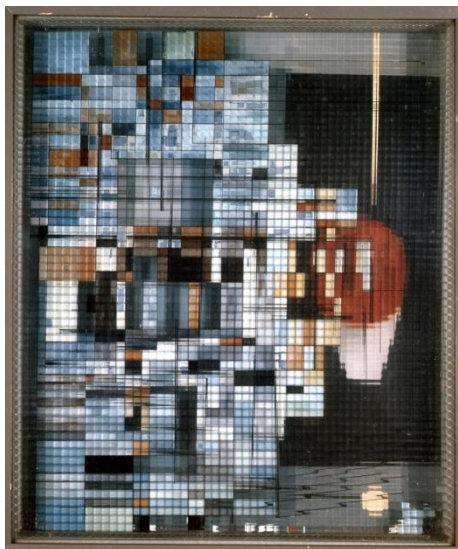
東京都現代美術館 事業企画課企画係広報班 野口 玲子
Tel 03-5245-1134(広報直通)/Fax 03-5245-1141 E-mail: r-noguchi@mot-art.jp



① 福島秀子《作品》1958年
油彩／カンヴァス
東京都現代美術館蔵



② バレエ実験劇場『乞食王子』の舞台
美術：福島秀子 撮影：大辻清司 1955年
東京都現代美術館蔵



③ 山口勝弘《ヴァイトリーヌ 夜の進行》1954年
紙、水彩、モールガラス、油彩／合板
東京都現代美術館蔵



④ 小島信明《無題》1964年頃-1966年
ラッカー、ポリエステル樹脂
東京都現代美術館蔵



⑤ 中村宏《円環列車A(望遠鏡列車)》1968年
油彩／カンヴァス
東京都現代美術館蔵



⑥ 福岡道雄
《何もすることがない 僕達がピンク色の女王のアドバルーンとなるとき》
1962-1965年
木、廃品、石膏、ポリエチレン
東京都現代美術館蔵

MOTコレクション

特集展示 | 福島秀子

クロニクル 1964- OFF MUSEUM

写真貸出/掲載申込書

展覧会広報用として作品写真6点をご用意しております。ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、ファクス又はEメール(r-noguchi@mot-art.jp)にてお申込みください。なお、写真の使用に際し、以下の点にご注意ください。

- ① キャプションは作品の下に 作家名、作品名、制作年、收藏先、撮影者 等を必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字載せ等はお控えください。

本展記事を紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為にゲラ刷り、掲載誌(紙)、同録DVD、CD等をお送りください。

雑誌名・番組名・サイト名

『

』

○印をつけてください

種別

TV ラジオ 雑誌 新聞 ミニコミ紙
ネット媒体 携帯サイト その他()

発売・放送予定日

御社名

御担当者名

Eメールアドレス

(〒 -)

住所

電話番号

FAX

図版番号

ご希望の図版番号に ✓ をつけてください。

①福島秀子《作品》1958年 油彩/カンヴァス 東京都現代美術館蔵

②バレエ実験劇場『乞食王子』の舞台 美術:福島秀子 撮影:大辻清司 1955年 東京都現代美術館蔵

③山口勝弘《ヴィトリース 夜の進行》1954年 紙, 水彩, モールガラス, 油彩/合板 東京都現代美術館蔵

④小島信明《無題》1964年頃-1966年 ラッカー, ポリエステル樹脂 東京都現代美術館蔵

⑤中村宏《円環列車A(望遠鏡列車)》1968年 油彩/カンヴァス 東京都現代美術館蔵

⑥福岡道雄《何もすることがない 僕達がピンク色の女王のアドバルーンとなるとき》1962-1965年 木, 廃品, 石膏, ポリエチレン 東京都現代美術館蔵

広報お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課企画係広報班 野口

Tel 03-5245-1134(広報直通)/Fax 03-5245-1141 E-mail: r-noguchi@mot-art.jp